九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# 中国における環境と食の安全性意識に関する研究 : 日中農業体験学習の事例から

英格

https://hdl.handle.net/2324/1441320

出版情報：九州大学, 2013, 博士（農学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏　　名　：　英 格

論文題目　：　中国における環境と食の安全性意識に関する研究
－日中農業体験学習の事例から－

# 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

中国では改革開放政策により，市場経済が導入され，農村体制の改革が図られてきた．急速な経済成長に伴い，中国全土で環境問題が深刻化し，水質の悪化が進行している．特に 2007 年には，太湖の大規模カニ養殖場では餌の過剰投入により，湖水の富栄養化をもたらしてきたが，工業化・都市化による水質汚染と高温多湿な天候にも影響され，アオコが異常発生した．そのため，太湖から飲料水を取水している無錫市では，太湖の水が利用できなくなり，かねてからの水質汚染が一挙に社会問題化した．他方，水産物の養殖過程において様々な病気が頻繁に発生しているため，それへの対処として大量の薬物が使用され，水産物における残留化学物質が問題となっている．このような社会的背景の下，中国における食の安全性の確保には，生産基盤である良好な環境や水質環境が不可欠であり，そのためにも中国国民の環境や水質汚染に対する意識を把握することが非常に重要であると考えられる．

そこで，中国国民の環境や食農に対する意識を把握するため，カニ生産者に対して意識調査を行った．その結果，その生産者や技術者は国の基準さえ守っていれば安全であると認識し，水質汚染や食の安全性に関しては余り敏感ではなかった．また，消費者に対しても水質汚染や上海ガニの安全性の意識と安全認証制度 China GAP に焦点を当てて分析を行った．その結果，水質汚染への認知度が高く，食事では「健康と安全」を重視する消費者が 53%もいたにも拘わらず，カニ購入に際し最も重視することは，30%の人が「鮮度」を挙げ，「安全性」を挙げた人は 13%に過ぎなかった．また，China GAP 自体に対する認知度も低いことが示された．これより，生産者と消費者ともに水質汚染や食に対する安全性意識が低いことが明らかになった．

次に，中国国民の環境や食の安全性意識を向上させることが重要と考え，そのため日本の体験型環境教育の一環である生き物調査を中国の小学校で実施した．その結果，生き物調査の参加した児童は，そうでない児童よりも環境への意識が深まった．また，保護者では，このような取り得に子どもが参加することの有無に拘わらず，その 98%が自然と触れ合う活動に，子供たちを参加させることを期待していることが分かった．

さらに，このような体験型環境教育が環境や食農に対する意識にどのように影響があるかを詳細に分析するため，日本で児童へのアンケート調査を実施した．その結果，農業体験学習は，児童の自然環境や食農に対する意識の向上に確実に影響する，また農業体験学習は都市部の児童のみならず農村部の児童でも農業に対する興味や関心を向上させ，自然環境や食農を大切にする意識を醸成させることが確認できた．

以上，本研究は，我が国及び中国における体験型環境教育の効果とそれが中国における食の安全性や環境意識の向上に有効な手段であることを確認するものであり，学術的価値の高い研究と言える．よって，本研究は博士（農学）の学位を得る資格があるものと認める．